

9. 11事件のメディア・リテラシー

DVD『Loose change 2nd ed. 911の嘘をくずせ』
の視聴前から視聴後への変化

いとうたけひこ・中川 拓[#]・益崎雄大[#](和光大学)
take@wako.ac.jp

キーワード: 陰謀説, 態度変容, 集団的記憶

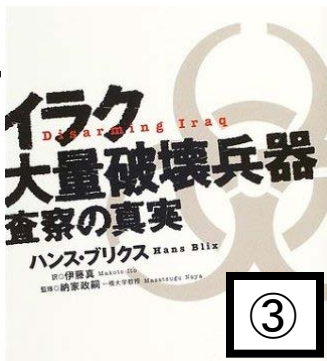
日本教育心理学会第53回総会
北海道立道民活動センター かでの2・7
2011年7月25日11:00～11:15 大会議室 (大-4-7)

21世紀に入り、やらせ・でっち上げで戦争の世論を操作・誘導した事件

- (1) 油にまみれた黒鳥事件
- (2) 虐待をみた少女ナイーラ、実は大使の娘だった事件

- (3) イラクに対し、大量破壊兵器を理由に開戦したが、実は無かった事件
- (4) 女性兵士ジェシカ・勇敢に戦った事件

- このような情報操作あるいは事実に基づかないプロパガンダによって、暴力についての集合的な記憶を共同体が共有する。
- それが世論の基盤となって、イラク戦争とアフガニスタン戦争の遂行に協力推進するような世論を高めてきた。
- このことを考えると、マクロレベル(マスメディア)での騙されないためのメディア・リテラシー(池上, 2008)の向上のための教育が課題となろう。



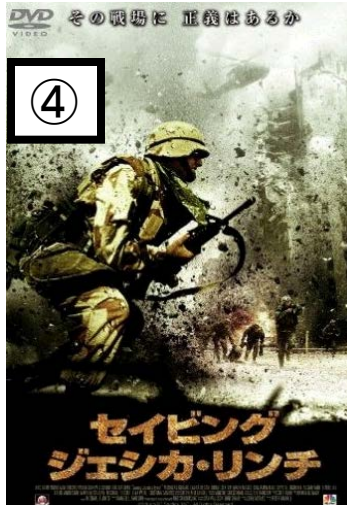
③



①



②



④

メディア・リテラシーの題材としての9.11事件

- 9.11事件(9.11テロ)によるWTC崩壊の様子は、マスメディアによって広く報道された。
- ブッシュ大統領の「テロとの戦い」政策は、米国国民の高い支持率を得たのち、アフガニスタン戦争とイラク戦争のきっかけとなった。
- しかし、戦争の発端として位置づけられている9.11事件の物的証拠は非公開であり、結果として米国軍需産業に莫大な利益をもたらしたこと、アルカイダがCIAに育てられた事実があるなど、いまだ未解明の部分も多い。
- こうしたなかで、米国政府による公式見解の矛盾点を指摘する、さまざまな諸説が生み出されている。その諸説の1つとして、米国政府の公式見解に対して「事件は米国政府が予め知っていた」あるいは「米国による自作自演である」などと主張する、いわゆる「米政府関与説」(陰謀説、謀略説; 以下 陰謀説)が唱えられている。
- この事件は、メディア・リテラシーの形成のための研究として興味深いテーマである。

先行研究

いとう・大高(2011)では、9.11事件を題材としたメディア・リテラシーとその教育について研究することは興味深いテーマであるとして、「米政府関与説(陰謀説)」の立場に立つビデオ資料である『911ボーイングを捜せ』(約50分)や『9/11: 真実への青写真』(β版: 約58分)を扱った研究を行った。

いとうたけひこ、大高庸平(2011)『911ボーイングを捜せ』と『9/11: 真実への青写真』の視聴前から視聴後への米国政府公式見解への支持の減少はなぜおこったか?: テキストマイニングを活用したメディア・リテラシーの検討 心理科学, 31(2), 38-49.

グローバルピースキャンペーン 制作: ハーモニクスプロダクション
(2009) 911ボーイングを捜せ (DVD)

グローバルピースキャンペーン 制作: ハーモニクスプロダクション
(2009) 9/11: 真実への青写真 建築の専門家による「崩壊」の徹底検証 (DVD)

- 結果として『911ボーイングを捜せ』『9/11: 真実への青写真』は共にその説得力の高さから大きな影響力がある。
- 真実への興味や懐疑的な態度を形成し、メディア・リテラシー向上のための教育として、
- 既成の価値や知識を揺さぶりクリティカルシンキングを促進する教育的手段として有効であることを示唆した。

いとうたけひこ、大高庸平(2011)『911ボーイングを捜せ』と『9/11: 真実への青写真』の視聴前から視聴後への米国政府公式見解への支持の減少はなぜおこったか? : テキストマイニングを活用したメディア・リテラシーの検討 心理学, 31(2), 38-49.

目的

- 本研究の目的は、いとう・大高(2011)に引き続き、グローバルピースキャンペーンの続編として2006年に公開された『Loose change 2nd ed. 911の嘘をくずせ』(約90分)を取り扱った態度変容について検討し、先行研究との比較を行うことにある。
- グローバルピースキャンペーン 制作：ハーモニクスプロダクション (2006)
ルース・チェンジ セカンド・エディション
日本語版 LOOSE CHANGE 2ND EDITION 911の嘘をくずせ (DVD)



方法

- 被験者は大学生158名（男子93名、女性64名、未記入1名、平均年齢19.0歳）であり、
- 有効回答者数は147名であった。有効回答率は93.0%である。調査実施は2010年7月17日に大学の心理学概論の授業にておこなった。
- 被験者には実験の意図を示さずに、約90分のビデオ資料『Loose change 2nd ed. 911の嘘をくずせ』を見せた。
- 質問紙は事前(見せる前)と事後(見せた後)があり、5つの共通の質問に加え、事前のみの質問が2つと事後のみの質問を8つ記入して意見を比較した。また、事後については、DVDの感想を記入してもらった。



質問紙(事前)の構成

問1 あなたは、2001年に米国で起こった9.11事件についてご存じですか？

問2 この事件の犯人は誰だと思えますか？

問3 犯人の目的は何だと思えますか？

問4 9.11事件により崩壊したニューヨーク市の世界貿易センタービルの建物の数は何棟でしたか？

問5 世界貿易センタービルの建物は、何が原因で崩壊したのだと思えますか？

問6 この事件について、何か記憶していることはありますか？

問7 この事件について、連想されるキーワードを3つ以上お書きください

質問紙(事後)の構成

問1 あなたは、このDVDを以前に見たことがありますか？

問2 この事件の犯人は誰だと思えますか？

問3 犯人の目的は何だと思えますか？

問4 9.11事件により崩壊したニューヨーク市の世界貿易センタービルの建物の数は何棟でしたか？

問5 世界貿易センタービルの建物は、何が原因で崩壊したのだと思えますか？

問6 このDVDを見て一番印象に残ったシーンはどこですか？

問7 DVDの内容について、どのようなイメージを持ちましたか？

問8 このDVDを見て疑問に思ったことはありますか？

問9 このDVDに点数をつけるとしたら100点満点で何点ですか？またその理由をお書きください

問10 この事件について自分で調べてみたいと思いましたか？

問11 9.11事件を報道していたメディアに対して何か思うことはありますか？

問12 この事件について、連想されるキーワードを3つ以上お書きください。

問13 このDVDについての感想をお書きください。

【結果①】3群による犯人についての意見の変化

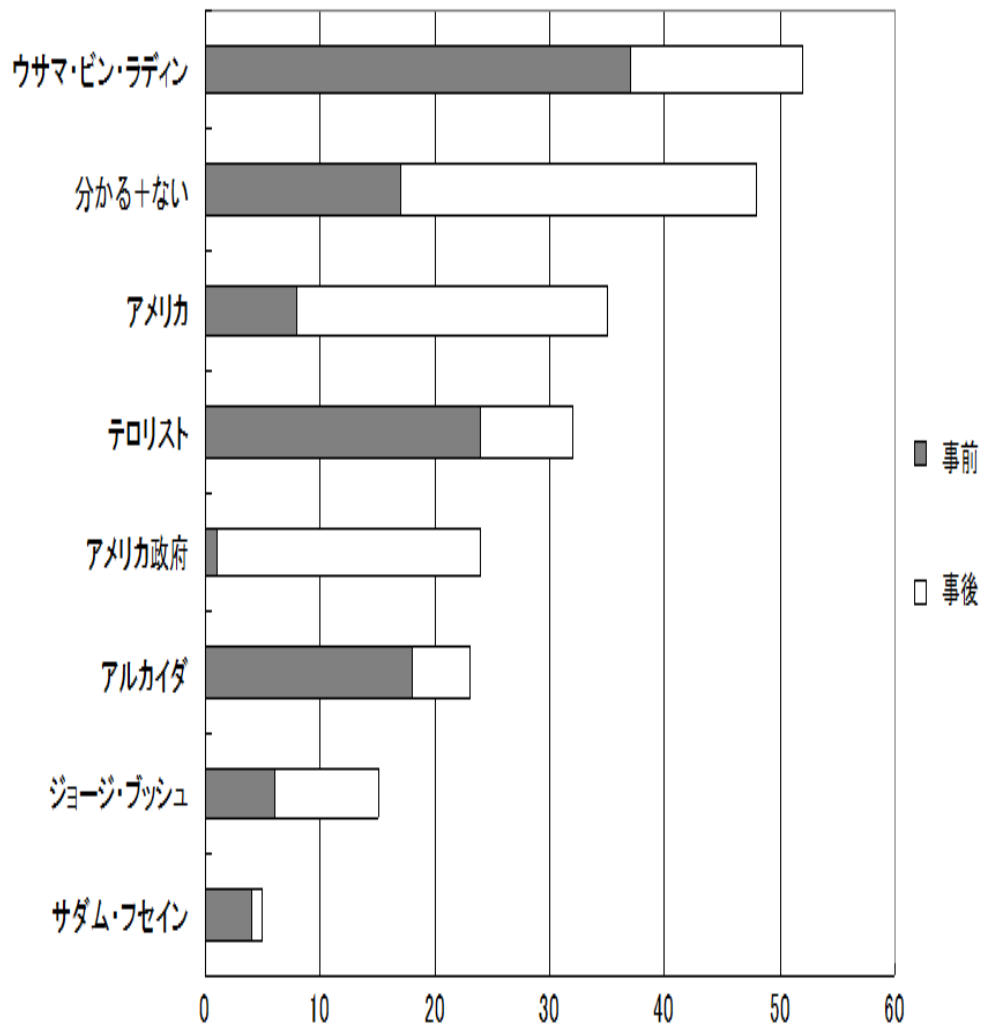
- Table.1 犯人についての米政府寄り意見と米政府関与説寄り意見の変化

		事後	米政府見解説	中間説	米政府関与説	合計
事前	米政府見解説	22	29	33	84	
	中間説	2	30	21	53	
	米政府関与説	0	0	10	10	
合計		24	59	64	147	

【結果②】犯人に対する単語数の変化

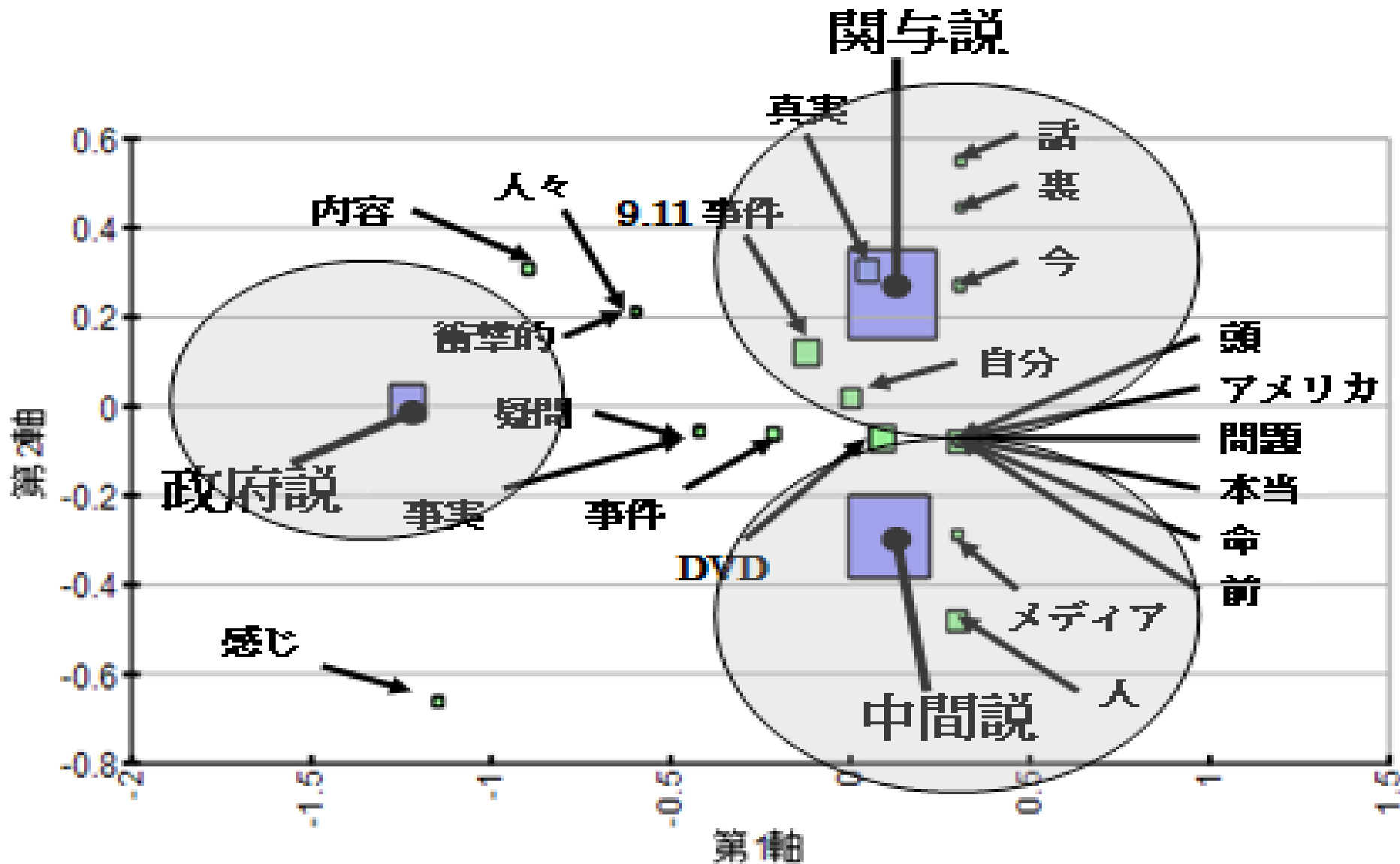
- Fig. 1 犯人は誰か？という問いに対する被験者の単語数の変化

単語	視聴前(事前)	視聴後(事後)	増減	合計
ウサマ・ビン・ラディン	37	15	-22	52
分かる+ない	17	31	14	48
アメリカ	8	27	19	35
テロリスト	24	8	-16	32
アメリカ政府	1	23	22	24
アルカイダ	18	5	-13	23
ジョージ・ブッシュ	6	9	3	15
サダム・フセイン	4	1	-3	5



【結果③】感想文の単語と3群の分析

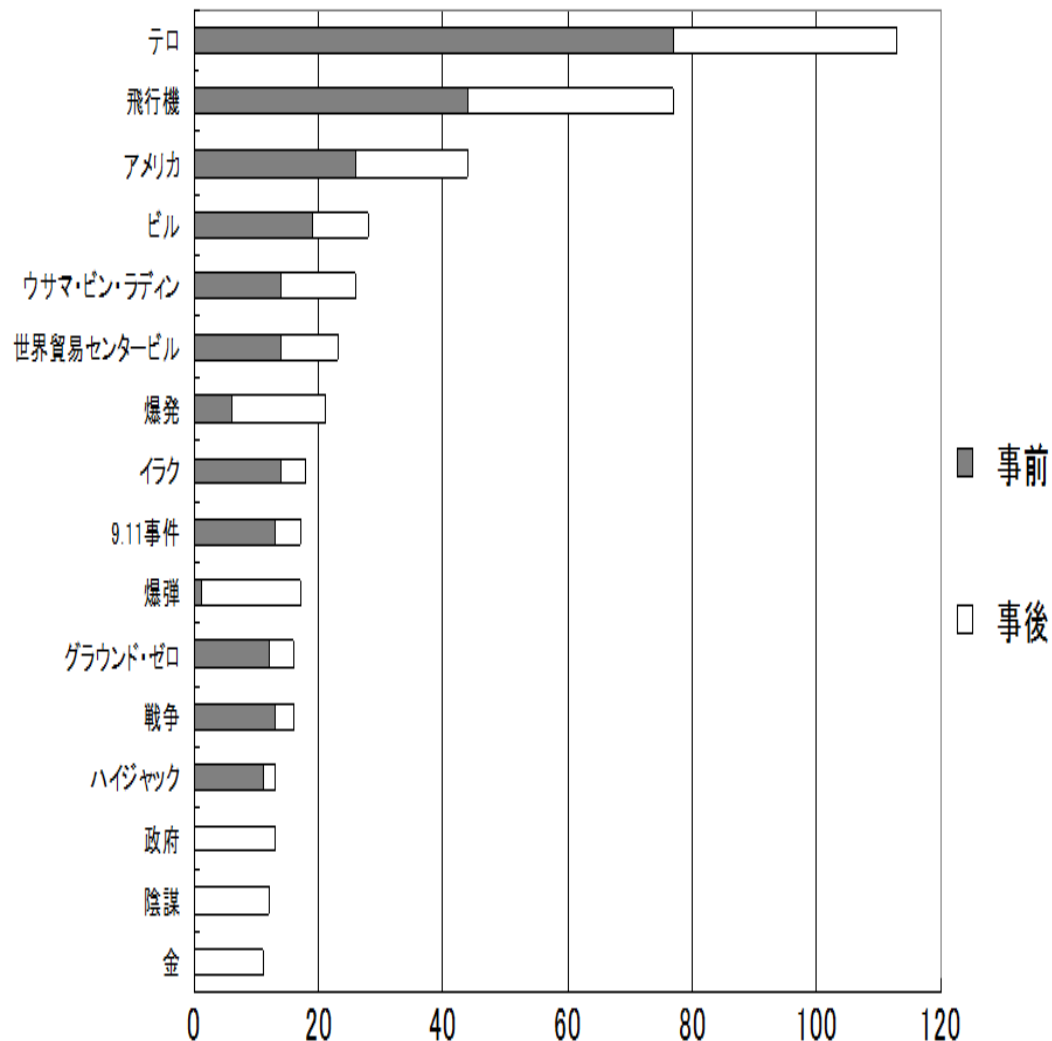
- Fig. 2 問13(感想文)における単語と3群の対応バブル分析



【結果④】連想されるキーワードの単語数の変化

- Fig.3 この事件について連想されるキーワードの単語数変化

単語	視聴前(事前)	視聴後(事後)	増減	合計
テロ	77	36	-41	113
飛行機	44	33	-11	77
アメリカ	26	18	-8	44
ビル	19	9	-10	28
ウサマ・ビン・ラディン	14	12	-2	26
世界貿易センタービル	14	9	-5	23
爆発	6	15	9	21
イラク	14	4	-10	18
爆弾	1	16	15	17
9.11事件	13	4	-9	17
戦争	13	3	-10	16
グラウンド・ゼロ	12	4	-8	16
政府	0	13	13	13
ハイジャック	11	2	-9	13
陰謀	0	12	12	12
金	0	11	11	11



【結果⑥】ビルの崩壊した数に対する事前事後の意見変化

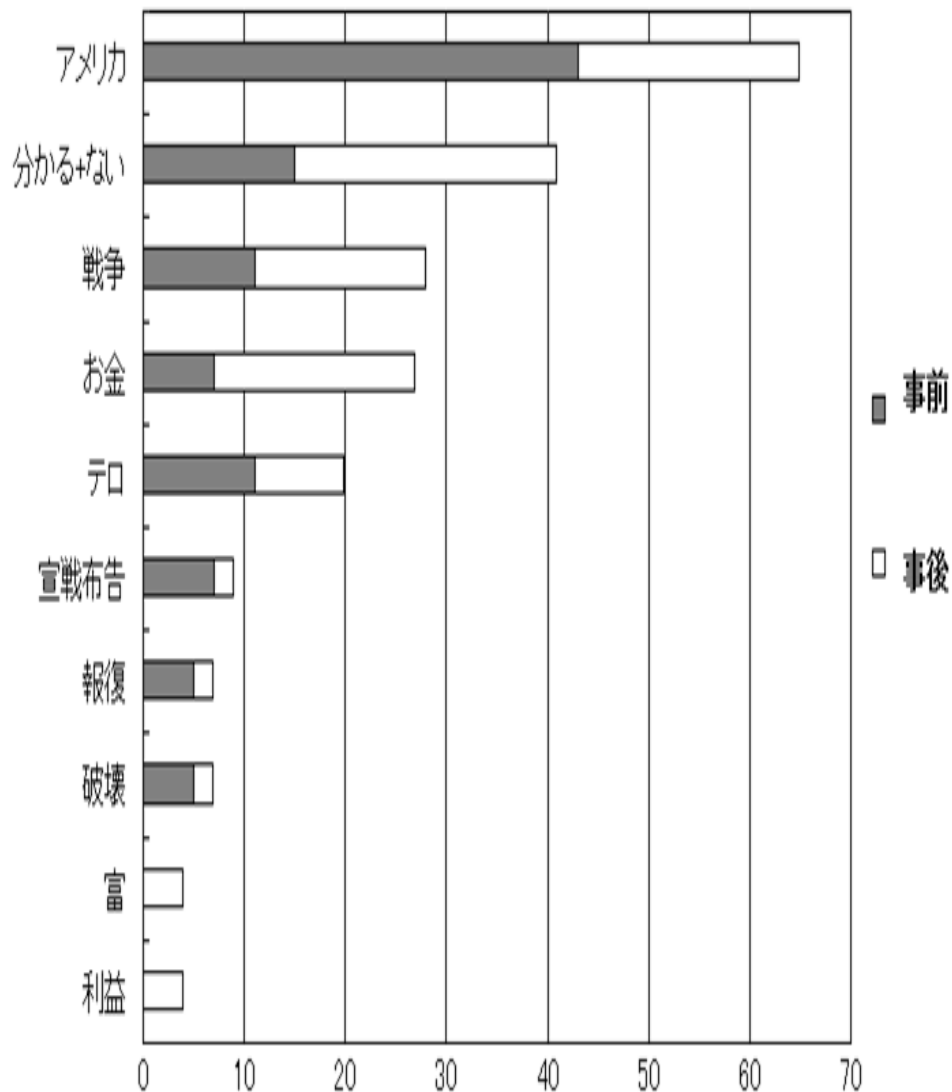
• Table.4 ビルの崩壊した数に対する意見の変化

		事後	正答(3棟)	誤答(2棟)	誤答(4棟以上)	誤答(1棟以下)	合計
事前	正答(3棟)		3	6	0	0	9
	誤答(2棟)		17	67	2	4	90
	誤答(4棟以上)		1	3	11	0	15
	誤答(1棟以下)		1	4	0	2	7
合計		22	80	13	6	121	

【結果⑦-1】「犯人の目的」単語頻度の変化(Fig. 4)

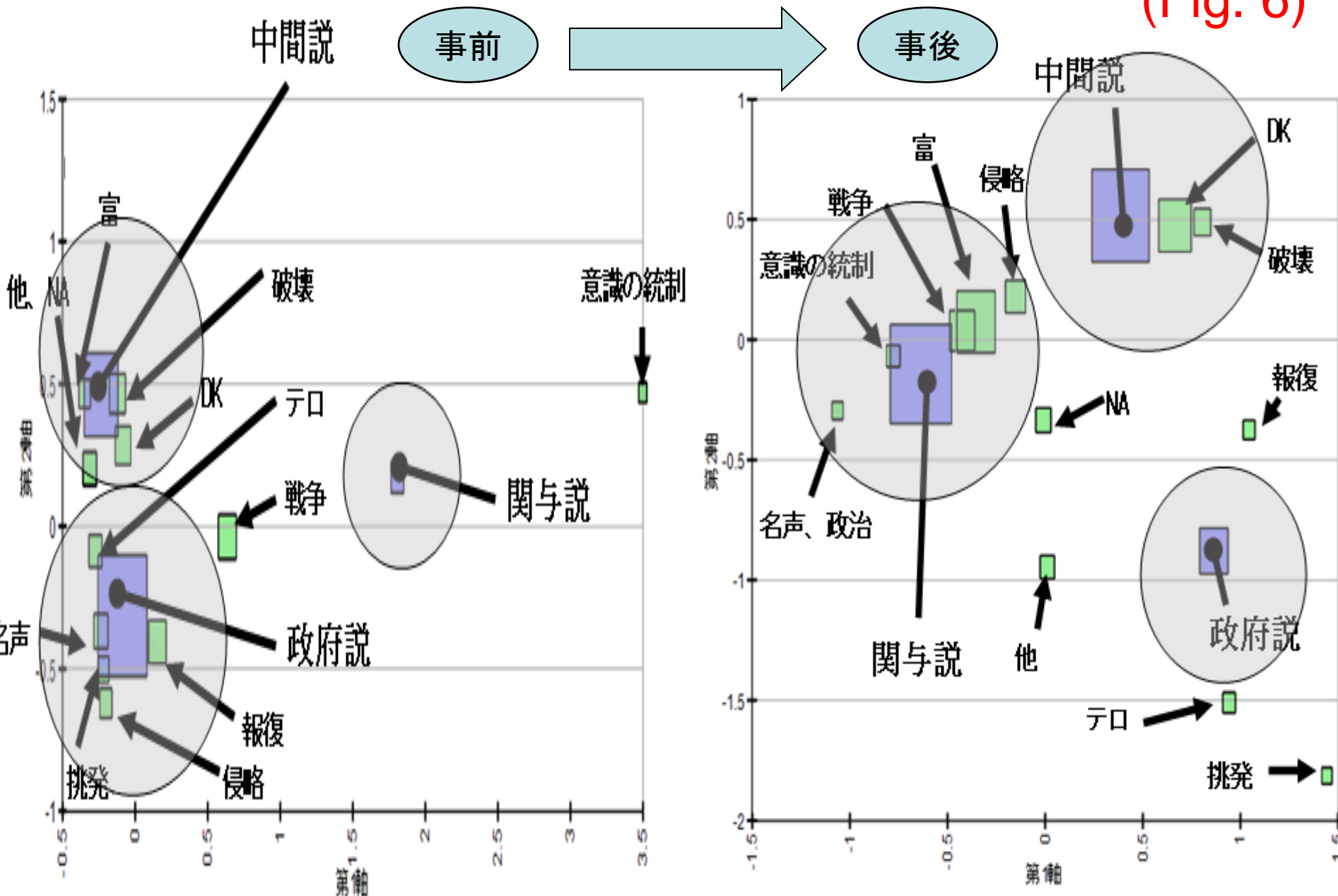
- ※青枠が視聴後に減少した単語、赤枠が増加した単語

単語	視聴前(事前)	視聴後(事後)	増減	合計
アメリカ	43	22	-21	65
分かる+ない	15	26	11	41
戦争	11	17	6	28
お金	7	20	13	27
テロ	11	9	-2	20
宣戦布告	7	2	-5	9
破壊	5	2	-3	7
報復	5	2	-3	7
富	0	4	4	4
利益	0	4	4	4



【結果⑦-3】視聴前と後のカテゴリと3群との対応分析

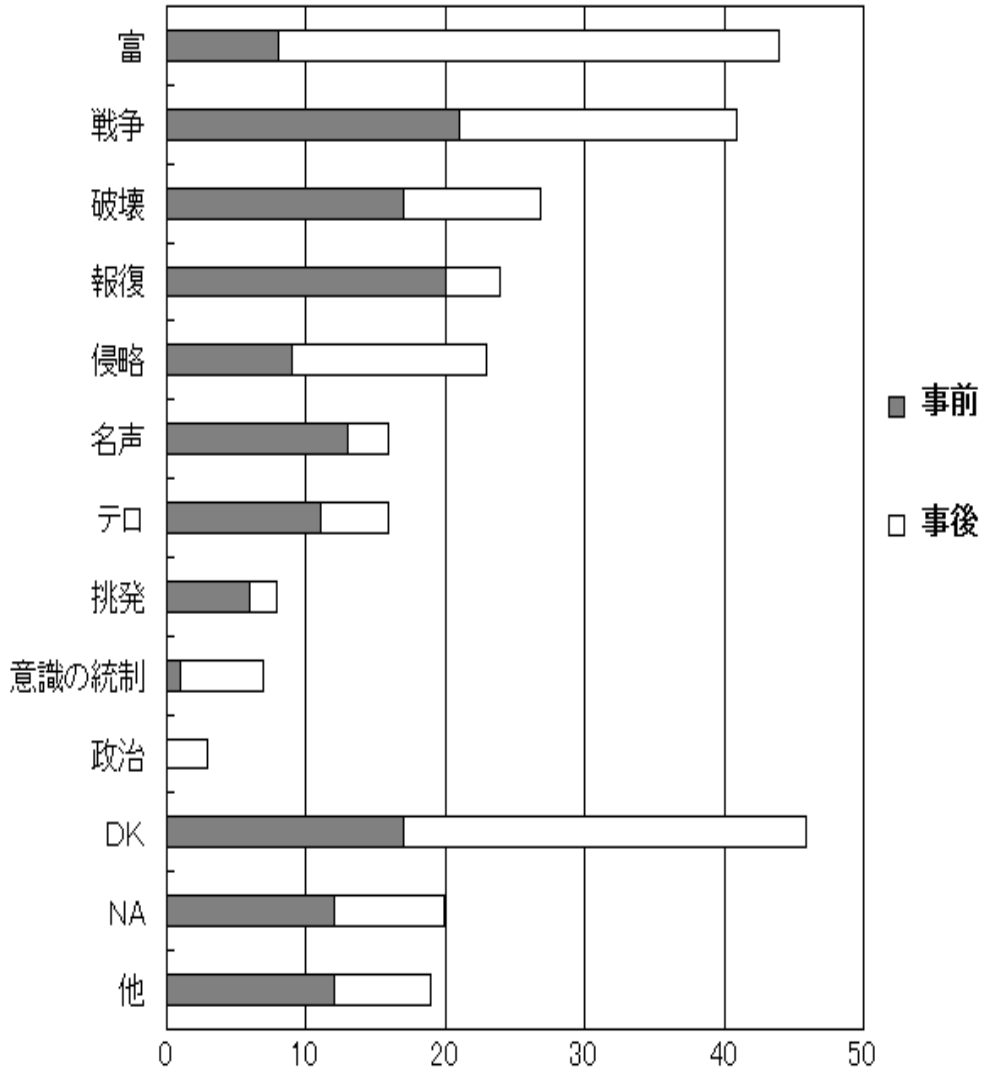
(Fig. 6)



【結果⑦-2】犯人の目的におけるカテゴリの変化

※青枠が視聴後に大きく減少した単語、赤枠が増加した単語 (Fig. 5)

単語	視聴前(事前)	視聴後(事後)	増減	合計
富	8	36	28	44
戦争	21	20	-1	41
破壊	17	10	-7	27
報復	20	4	-16	24
侵略	9	14	5	23
テロ	11	5	-6	16
名声	13	3	-10	16
挑発	6	2	-4	8
意識の統制	1	6	5	7
政治	0	3	3	3
DK	17	29	12	46
NA	12	8	-4	20
他	12	7	-5	19
合計	147	147		294

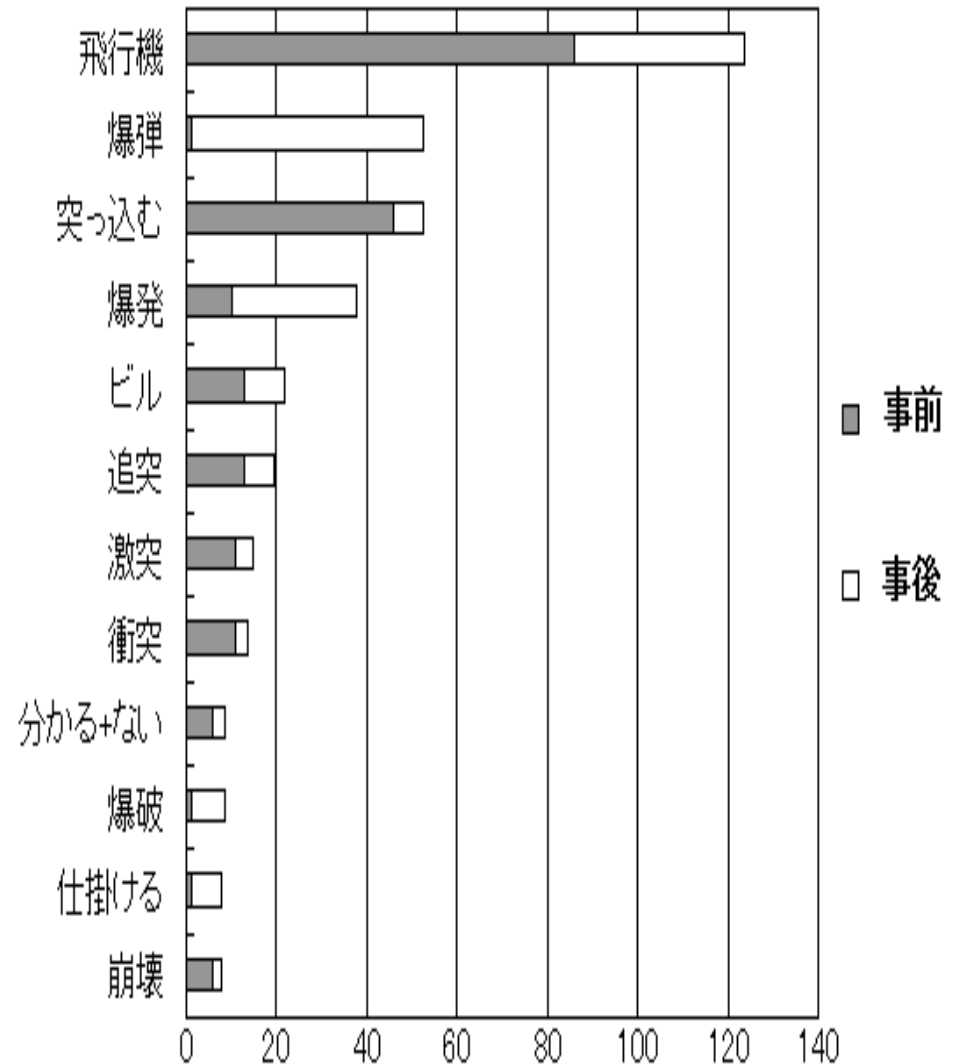


- 犯人の目的に対する事前事後の対応バブル分析から、視聴前に関与説を支持していた回答は「意識の統制」を目的と考え、政府説では「名声」「侵略」「報復」が犯人の目的だと考えている。
- 視聴後は関与説を支持する回答が非常に増えているが、ビデオによる影響により「意識の統制」に加え、「侵略」「戦争」「富」「名声、政治」という目的が新たに現れていた。政府説の支持者は減少したものの、その回答には「テロ」「挑発」が特徴的だった。
- 9.11 事件のキーワードは、視聴前に「テロ」「飛行機」「アメリカ」が連想されるなかで、視聴後では政府説に関連した単語数が減少した。一方で、「爆発」「爆弾」「陰謀」という、映像資料内で扱われている関与説に関連した単語が多く使用され、とくに「政府」「陰謀」「金」は視聴後のみ見られている。
- 被験者の9.11 事件に関する元々の記憶には無かった要素が、映像資料を見ることで新たな記憶としてインプットされ、9.11 事件のキーワードとして新たに表出されたのだろう。

【結果⑧】ビル崩壊の原因の単語頻度の変化(Fig. 7)

- ※青枠が視聴後に減少した単語、赤枠が増加した単語

単語	視聴前(事前)	視聴後(事後)	増減	合計
飛行機	86	38	-48	124
突っ込む	46	7	-39	53
爆弾	1	52	51	53
爆発	10	28	18	38
ビル	13	9	-4	22
追突	13	7	-6	20
激突	11	4	-7	15
衝突	11	3	-8	14
爆破	1	8	7	9
分かる+ない	6	3	-3	9
崩壊	6	2	-4	8
仕掛ける	1	7	6	8



【考察】DVDの影響力とメディアリテラシー

- 『Loose change 2nd ed. 911の嘘をくずせ』が非常に説得力のある映像資料ということが示された。
- イトウ・大高(2011)と比べると、本研究では更に大きな正の差が得られたため、研究資料として扱った映像資料『Loose change 2nd ed. 911の嘘をくずせ』は非常に説得性の高い作品であることが示された。
- 両研究とも倒壊ビル数の事前の正答数(3棟)が少なかったのは、ツインタワーの倒壊映像に比べ第7ビルに関する映像が少なかったことが反映されているのだろう。
- マイクロレベルとマクロレベルでの両方のメディアリテラシーが重要である。

- 映像資料の視聴による9.11 事件の態度変容に関する一連の研究では、単語数やカテゴリ分けによる量的分析方法から、これらの資料には劇的な態度変容の効果が見られたにもかかわらず、回答文の質的分析を行うと、それほど確信をもって意見を変えているわけではなく疑問を持ちながらそう答えた者も少なからずいたことが分かった。
- ビル崩壊の原因の単語頻度の変化から、視聴後の「爆弾」の増加が著しい。映像資料内で繰り返し主張された制御解体のシーンと爆弾という言葉が被験者の記憶に強く残り、「飛行機が突っ込んで崩壊した」という記憶の物語が「爆弾によって爆破、解体された」という新たな記憶に転換されたのだろう。

【文献・資料】

いとうたけひこ、大高庸平(2011)『911ボーイングを捜せ』と『9/11: 真実への青写真』の視聴前から視聴後への米国政府公式見解への支持の減少はなぜおこったか? : テキストマイニングを活用したメディア・リテラシーの検討 心理学, 31(2), 38-49.

グローバルピースキャンペーン 制作: ハーモニクスプロダクション (2006) ルース・チェンジ セカンド・エディション 日本語版 LOOSE CHANGE 2ND EDITION 911の嘘をくずせ (DVD)

グローバルピースキャンペーン 制作: ハーモニクスプロダクション (2009) 911ボーイングを捜せ (DVD)

グローバルピースキャンペーン 制作: ハーモニクスプロダクション (2009) 9/11: 真実への青写真 建築の専門家による「崩壊」の徹底検証 (DVD)

小城英子・萩原滋・村山陽・大坪寛子・渋谷明子・志岐裕子 (2010) 集合的記憶とテレビーウェブ・モニター調査(2009年2月)の報告(2) — メディア・コミュニケーション(60), 29-47

出た質問

- 1ヶ月後の効果はどうか？ 取っていない
- (問4の、ほとんど2棟に誤答した)(40人程度)
- メディア・リテラシーにどうつながるのか？ 教育的意味は？